

旭川市手話施策推進会議内容報告書

[令和6年度 第1回 旭川市手話施策推進会議]

開催日時 令和6年7月31日(水)
午後6時30分～午後8時00分
開催場所 旭川市7条通9丁目
旭川市総合庁舎7階 大会議室B

会議の名称	令和6年度 第1回 旭川市手話施策推進会議	
出席者 委員(8人) 事務局(3人)	栗田克実会長, 中川雅敏委員, 橋本由美委員, 菅原さとみ委員, 村岡篤子委員, 今井慶子委員, 加藤弘委員, 飛弾野弓子委員 水上障害福祉課長, 遠藤障害事業係長, 森本障害事業係員	
傍聴者数等	2人(会議は全体を通して公開)	
議事の内容 議題1 議題2 議題3 議題4	令和5年度の実績結果 令和6年度の実績(予定) 令和6年度意見交換会 第7回全国手話言語市区長会手話劇祭	
審議内容及び 主な意見等 (開会) 議題1「令和5年度の実績結果」		<p><事務局紹介></p> <p>会長 議題1について, 事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 [資料1～4に基づき説明]</p> <p>会長 質問・意見があれば, 挙手で発言をお願いします。</p> <p>B委員 盲ろう者について, 令和5年度は登録者が札幌市のほか仙台市, 松山市と書いてあるが, 松山市から通訳・介助員が来るという意味か。</p> <p>事務局 旭川市在住の盲ろう者が実際に仙台市と松山市に行った際に現地の通訳・介助員を派遣している。</p> <p>B委員 条例ができて8年になるが, パンフレットが少し古くなってると感じる。新しいものが必要かと考えてるがどうか。</p> <p>事務局 パンフレットを作成してから軽微な修正はしているが, 全体的な見直しはまだできてないので, 中身の精査は必要と考えている。</p> <p>B委員 パンフレットの作り直しを来年にするのか再来年にするのか, そういった計画は具体的にあるか。2年後, 条例ができてちょうど10年目になるため, それをきっかけに変えるとか。そうではなく, すぐに変えようということは考えているか。</p>

議題2「令和6年度の取組(予定)」	事務局	現時点で明確に考えてはいないが、内容が変わっていない部分については課題と捉えている。今後、実際に使われている方の感想などを聞きながら、準備が整った段階で徐々に改正していければと考えている。一気に全面的に変えるという考え方もあるかと思うが、そこは使われている方の感想等を聞きながら検討を進めていきたい。
	D委員	令和4年と令和5年で、中学校の出前講座が0なのはコロナの影響か。何か中学校側に理由があるのか。
	事務局	明確な要因分析は行っていないが、この事業に限らずこの時期はコロナの影響等があり、なかなか出前講座の普及が進んでいない状況。一番大きいのはコロナの影響と考えられる。
	会長	一方で小学校は件数が増えているということもあるので、学校がどんなテーマを選ぶかによるところもあるかと思う。条例が始まって相当の時間が経ち、いろいろなことが進捗してきてはいるが、10年目を目指して少し点検をしながら、ブラッシュアップして11年目以降、良いものをつくっていくことを視野に入れながら議論していければと思う。
	会長	次に議題(2)「令和6年度の取組(予定)」について、事務局から説明をお願いします。
	事務局	[資料5に基づき説明]
	会長	質問・意見があれば、挙手で発言をお願いします。
	A委員	手話のPR動画については、ろうあ者相談員が行うと思うが、できればろうあ協会に依頼して動画を作成していただければ良いのかなと個人的に思う。広報について、以前も話したが、空きが出た月に載せるのではなく、条例も8年目になるため、月1回、確実に載せていただきたい。
	事務局	手話PR動画について、今年4月から新しくろうあ者相談員が採用された。手話PR動画はここ数年できていなかったが、今年度は準備が整ってきているため、まずは市で作成したいと考えている。その後また改めて、この会議等で御意見をいただきたい。広報誌への掲載については、ページに空きがない状況。担当課とも相談をするが、現状では小さいコーナーで不定期に掲載することを考えている。
	A委員	相談員が新しく雇用されたが、まずはろうあ協会に依頼をして、それから皆さんに見ていただくのが1番良いかと思う。 広報誌について、条例もあるため、その辺りの理解を担当課にもしっかり説明していただき、対応をお願いしたい。石狩市などでは必ず月1で広報誌に載せる取組をしている。空いていたなら載せるのではなく、やはり条例が制定された以上、必ず、毎月載せていただきたい。
C委員	PR動画については短いスパンで動画がアップされなければ興味を失われてしまい、見続けてもらうことが難しくなってしまう。年に3回となると、次の更新を待たずに忘れてしまう。定期的な目にとめてもらうためにも、絶対無理なのは分かっているが、週1本、短くていいのであげてほしいぐらい。せめて月1で動画を上げていただければ、まめに更新することが大事になる。その上で、動画に登場するのは職員のろう者に限らなくていいと思う。きちんと手話の表現ができて、	

		<p>地域になじんでいる方が登場するのも大事なことだと思うので、職員＋ろう協等、そういう形で動画を作っていたら。広報に載せられない分動画でフォローするという考え方もあるかと思う。</p> <p>出前講座について、福祉サービス事業所や介護サービス事業所は実際にろう者に触れ合う方が多い場所だと思う。今年は申込み件数が3件あるということだが、思ったより少ない印象。実際にろう者との関わりを強く持つ場所へは積極的に周知していただければと思う。事業所の中で実際に手話ができる方がいるか知る方法はあるのか。手話講習会に通って勉強してる人が多いのか、出前講座を受ける程度で終わっているのか、それともどちらも受けてない人が多いのかを調べることは可能か。</p>
	事務局	<p>事業所の中で手話ができる人がどのぐらいいるか把握はしていないが、手話講習会に通って、自分が働いている事業所でも手話の出前講座を受けたいと申し込む方もいれば、事業所でろう者の方との関わりを持つために手話歌や手話の簡単な挨拶を学びたいと申し込む方もいる。</p>
	C 委員	<p>これだけ手話普及のための活動をしていても、実際これがどのぐらい普及したのかを実感できていない。こういうことをやっただけではなく、実際にこういう変化が出たというの何か分かる形で確認ができるよう検討してほしい。</p>
	事務局	<p>どのぐらいの実感があるか、こういった形で提示できるか現時点で回答はできないが、実感の部分も取組の結果として示せるよう検討したい。</p>
	会長	<p>手話PR動画は毎週は少しきついが、広めることが目的であり、作ることが目的になってはいけない。数年前に作ってもあまり見られていないという話も出ていたが、今回はトップページの注目情報から見られるということで、いろいろとやってみて、どうだったか振り返りながら進めていければと思う。どのぐらい実感があつたか、市民アンケートの設問に入れることはできるのか。</p>
	事務局	<p>この場では分からないので、担当課に確認をとる。</p>
	会長	<p>何らかの手法で広く市民に認知度を確認するという作業もそろそろ必要になってくる。そこで分析をしながら新しい取組を考えていくことは大事かもしれない。</p>
	G 委員	<p>福祉サービス事業所は手話の指導ができる方がいれば体制加算がつくはずなので、それが分かると、どここの事業所に手話ができる人がいるという確認はできると思う。手話出前講座をリピートしている人をピックアップして追跡して、例えば4、5年生ぐらいの人達が中学生になったときに、どれぐらい手話を使っているか追跡しながらアンケートをとっていくことも可能かと思う。PR動画はYouTubeで簡単に見ることができる。自分は手話を忘れたら他の行政のPR動画を見ているので、定期的に動画に上げることが大事だと思う。あさひばしは情報量が多く、先日、盲ろう者通訳介助員の研修がどこに載っているかすごく探した。あさひばしはきれいで見やすくなっているが、その問題もあるのかと感じる。</p>
	会長	<p>QRコードだけでも載せるというような見せ方の工夫が必要。</p>
	F 委員	<p>広報誌は確かに情報量が多いので、ページに空きができた場合のみではなく、定期的に載せることで市民への周知がなされると思う。</p>
	E 委員	<p>放課後児童デイサービスの一覧があるが、手話ができる人がいるかが分かるか</p>

		ごく選択しやすい。デイサービス事業所にも手話出前講座を呼び掛けてもらいたい。広報誌に繰り返し連載すると、次は何かなという期待感にも繋がるため、小さいスペースでも良いので手話のコーナーがあると良い。
会長		広報と動画で、ICTもうまく使いながら広めていくことがこの先大事なことかと思う。
D 委員		手話出前講座のアンケートの内容を分析し、今後受講者が増えるように取り組んでいくかと思うが、保育園、幼稚園から手話を学べる機会があると良い。条例の中にも教育現場での手話の普及が盛り込まれているため、小学校や中学校での手話の普及について、アンケートを分析した結果、どのように広めていくのか。
A 委員		アンケートを読むと手話を学んでみた感想で、「手話は人をつなぐ大切な手段だと思った。これからも学んでいきたい。」とある。さらに手話を学びたい、手話を続けたいという方に対して、初級手話講座があるということを伝えてほしい。
D 委員		手話出前講座を受けた小学校の数が余りにも少ない。おそらく市内に50校以上小学校があるが、5分の1の小学校しか手話出前講座を受けていない。それは少なすぎるのではないかと。手話出前講座を広めるために、他市が実施しているいろいろなやり方を旭川市でも取り入れるのはどうか。そういった考えは市にあるのか。
事務局		アンケートに関しては講座の内容の質を上げていく、リピーターを獲得していくという内容が主立った項目になっている。御指摘の部分に関しては、どちらかという手話出前講座を受けていない方に広げていくということかと思う。他都市の調査であったり、今行っているアンケートの項目を見直す等、どういった方法が良いか検討しながら、小・中学校の拡大に向けて検討を進めていきたい。
D 委員		手話条例の中で、この推進会議は施策に関する推進会議と位置づけられている。もちろん手話出前講座を広めることもとても大切な事業の一つだが、条例の中には他の事業も施策として入っている。それをリンクさせながら他の施策も事業としてやっていけないのか。この推進会議が設立されてから、なかなか他の施策が事業として広がらないのはなぜか、市としてどう考えているか。
事務局		政策間の連携に関して、それぞれの分野で異なる課題があるため、各取組に関しては、アンケート調査等を個別に実施しているところ。正直、それぞれの取組が横で繋がっていくという部分に関しては、我々も弱い部分と感じているため、本日頂いた意見を踏まえて、どのようにやっていくのが良いか、具体化できるように取組を進めていきたい。
A 委員		先ほどの私の質問に対しての答えもお願いしたい。例えば手話出前講座のアンケート用紙に初級手話講座の案内を掲載することも検討してほしい。
事務局		アンケートへの記載や、設問については検討していきたい。手話出前講座1回で終わるのではなく、次につながるような周知ができるようにしたい。
B 委員		手話出前講座はろうあ協会に委託されてやっているが、今の子どもはインターネットでいろいろと調べることができるため、以前調べた手話を覚えている。ただ、ろう者と会って会話をしたという経験がない。このアンケートを見ると会話をしてみたいという意見もある。ただ、手話出前講座はろう者の講師が1人で行くた

議題3「令和6年度意見交換会」		め、小学校では1対何十人という中で全員と会話するのはなかなか難しい。小学校の場合、ろう者が生活で使うものや音の代わりになる機械を意外と知らないことが多い。その機械を実際に見ることで理解も深まり効果的になる。中学生はそのバランスが難しい。手話に興味がないわけではないと思うが、自分で調べたらできるという考えもあるのではないかと分析している。やはり小学校、中学校にもたくさん受けてもらうことが必要なので、会話ができるような工夫や、今後どのようにするのかも検討していただきたい。
	会長	アンケートは毎年同じ設問である。受講団体が31件で回答団体が10件、3分の1というところで、分析するのは難しい件数かと思う。受講した団体ではなく、個人に回答してもらわなければならない。次につなげていくためには、まず本講座の内容に関する評価等、アンケートの項目やアンケートの取り方を整理し、それが整理された上で今後団体数を増やしていくという方向になっていくのではないかと。
	会長	次に議題(3)「令和6年度意見交換会」について、事務局から説明をお願いする。
	事務局	[資料6に基づき説明]
	会長	最終的には2回目の会議で決定することになるが、そこでの大きな変更は難しいため、事務局から説明があった素案について、質問・意見があれば、挙手で発言をお願いする。
	会長	前回の会議でワークショップ形式を複数年でやったらどうかという話をし、3月にワークショップを行った。人数の問題はあったが、今までの意見交換会とはタイプの違う手法だった。詳細はその後意見を頂いて詰めていくが、ワークショップ形式を維持していったほうが良いと思う。今年もしうまくいけば、またテーマを変えて来年もということも考えている。テーマに関して、昨年度は緊急時を大テーマとして2年間進めていきたいと思いますという話もあった。緊急時における支援という部分はこれでいいかと思うが、実施内容の案について御意見をいただきたい。
	A委員	今年3月に行ったワークショップは良かった。効果があったと思う。ただ会場が狭かった。人数も多く、歩くのも大変な状態だったので、もっと広い場所で、さっき事務局からも説明があったが体育館もあり得るなと思った。ただ、シートを敷くとか設営が大変だと思う。広くて落ち着いて話せるようなワークショップを続けられるといい。
	会長	昨年は1グループ15名でにぎやかではあったが、大変なこともあった。
	事務局	予算の関係もあるが、なるべく広い場所ではと考えている。
	C委員	今年度の意見交換会が1番やりたかった形になるかと思う。昨年度のアンケート結果を見ても、市民の方も多く参加されていて良かった。ワークショップの意見・感想の中に、次回はろう者の避難訓練等をしてみたい、聞こえない人ばかりのところでは聞こえる人が1人だけという状況ならどうなるかを体験するのはどうか等と書いてあるので、災害等が起きた現場で聞こえない人と一緒にいた場合、実際どういうことが必要になるのかを実体験できる内容にすることが今回の大きなテーマになるかと思う。ただそうすると、ろう者の参加もかなり必要になるため、ろうあ協会の皆さんにも御協力をいただきたい。前回は聞こえる方12～13人

		<p>の中にろう者が1～2人という感じだったので、その比率だとこの体験は難しい。1グループの人数をどんなに多くても10人以下にすると良いかと思う。実際に手話が全然分からない人のグループができて構わない。通訳を介さずに体験するのは、それぞれ緊急時の設定を作った上で行うのか。</p>
	事務局	<p>いくつかをお題を出して、その場面に沿って実際に身振り手振りで相手に伝えるという考えである。</p>
	C 委員	<p>おそらく実際の旭川市内の街中を想定するシナリオをきちんと作った上で、それぞれのグループに課題を出していくというのがポイントになると思う。意見交換会という性質を考えると、シミュレーション的なものになるかと思うが、最近では実際に外に出て災害を想定した避難訓練を行っている地域もある。そうすると避難場所の場所は分かっているのに普段通っている道が災害時には通れなくなっていたり、避難所を間違えたりとか、実際にそういうことも起きたりしていて、さすがにそれを体育館で経験するのは難しいと思うが、道を間違っていることに気付いて、一旦止めてろう者に案内するとか、そういったことも実際には起きてくると思うので、ろう者への伝え方等を実際の状況にできるだけ近い形で体験できたら良い。</p>
	B 委員	<p>昨年度は講演を聞いてから意見交換会を行っていたが、今年度は意見交換会を行ってから講演を聞く方法にすると良いと思う。体験を通して自分の気づきを得た上で講演を聞くとより効果的だと思う。ワークショップは、実際にろう者がたくさんいて、そこに聞こえる人が少数いたときにどう不安を感じるかを体験してもらおうのが理想。でも実際は難しいため、例えば避難所を作って、放送が流れたとき、どうやってろう者に伝えるか、支援するのかというところからやってみると良いと思う。場所は体育館だけではなく、例えばおびつた全館、全部の部屋を使って、それぞれで分かれて経験した後、体育館に集まり、どうだったかお互いの話を聞いて、最後に全体で講演を聞くという流れが良いと思う。</p>
	会長	<p>結構ダイナミックな手法だが、先に講演をせずに、体験をした後に講演をする方法は良いかと思う。説明が続いた後にワークショップをやると少し効果が薄まる感じがする。体験をした後に体験の意味づけを話してもらおうと良い。講演も20分で長すぎるわけではないので、ぜひそういった手法でやってみてはどうか。部屋の問題もあるかと思うが、人数も50人より少し多くても良い。</p>
	C 委員	<p>全館借りるのは無理かと思うが、スタート地点は外に出た駐車場あたりにしてみても良いし、おびつたの待合所のような場所を設定しても構わないと思う。ちょっと違った場所から皆で体育館まで避難するという経験ができれば、全館借りなくても可能だと思う。場所が設定できれば良い。</p>
	会長	<p>実現可能かどうか、できるとしても令和6年なのかそれ以降になるのかも含めて、場所や人数等をもう少し詰めていければ良い。</p>
	G 委員	<p>昨年度委員として皆さん参加されていたかと思う。昨年度参加してすごくよかった。今年度は体験する前に、ぜひ手話を少し参加者に教えてほしい。手話を使って体験できたらそれもまた経験になるので良いと思う。参加者全員が体験するとなると客観的に見る人がいないため、10人以下のグループで、最初は外から見ると、実際に体験する人と分かれて最後に振り返りのような意見交換ができれば良い。グループ分けが大変かもしれないが、ワークショップや体験をする際は手話通訳はあまりいらんと思う。あとはおびつたでここで災害が起って、ここ</p>

		が避難場所で、ここにお店があるみたいに、各箇所役割をする人がいて、その中でやってみても良いかと思う。
	会長	いっぺんにではなく、少しずつ盛り込んでいけたら良い。時期が2～3月だからもしかすると駐車場を使うのは難しいかもしれない。
	G 委員	前はなぜお子さんがいなかったのか。応募がなかったのか。土曜日仕事の方も多いのか。親子参加もあれば良い。意見交換会はこれまでで子どもの参加はなかった。何か一緒にできたらいいが、意見交換会という名前が少しもったいない。
	会長	これまで高校生の参加はあった。やっていることは意見交換会というよりワークショップなので、見せ方と案内の仕方について、事務局で何か考えはあるか。
	事務局	意見交換会という名前だと、子どもにとっては少しハードルが高く感じると思うので、なるべく子どもにも来ていただけるよう、文言や周知の仕方を工夫していきたい。
	会長	プログラムは全部で3時間。もともとはパネルディスカッションをやっていたが、一方通行になってしまうため、少し動きをつけるという経緯で昨年度からワークショップ形式で進めている。この形式でいろいろやってみて、より多くの方に参加してもらえたら良い。
	B 委員	意見交換会は何曜日に実施する予定か。
	事務局	今のところ土曜日を予定している。
	B 委員	土曜日でも良いが、土曜日仕事がある人が結構いる。日曜日の方が参加者が集まりやすい。
	事務局	おびったの空き状況を確認して検討したい。
	会長	おびったもかなり予約が入っているので、開催日はかなり絞られてくる。スケジュールは少し早めに教えていただきたい。手法や順番、場所に関していろいろな意見が出たが、次回の会議でもう少し詳しい実施案を作成していただきたい。実現可能なものもあれば、今年は少し難しいもの、段階的に実施していくものもあると思うので、ワークショップはやることになるが、実現可能な部分を人数も含めて検討してほしい。
	事務局	今日頂いた意見を参考に、内容を詰めて第2回会議までに提示できるようにしたい。
議題4「第7回全国手話言語市区長会手話劇祭」	会長	次に議題(4)「第7回全国手話言語市区長会手話劇祭」について、事務局から説明をお願いします。
	事務局	[資料7-1, 資料7-2に基づき説明]
	会長	質問・意見があれば、挙手で発言をお願いします。 (意見なし)

その他	会長	以上で、本日の議事に対する審議を終了する。
	会長	次にその他であるが、委員から何かあるか。
	A 委員	条例がスタートして今年で8年目となる。2年後には10年の節目になるが、どのようなイベントや記念事業をすれば良いか、何か考えはあるか。
	事務局	条例ができてから10年という節目の年が間もなく迫っているが、まだ具体的な案は固まってはいない状況。ただ、手話の普及という名目で設置されている条例の中の推進会議の委員の皆さんの御意見を聞きながら、節目に何かできればと考えているため、引き続き御意見を頂ければと思っている。
	A 委員	早めにたたき台ができると良い。
	会長	事務局から何かあるか。
	事務局	本日の審議内容を踏まえ、今後の取組を進めていく。令和6年度の意見交換会については、本日委員からいただいた意見を踏まえて整理させていただく。次回開催は11月から12月頃を予定しているが、委員の任期が今年の10月31日までとなっていることから、現委員による会議は本日が最後となる。次期委員の構成については現行と同様にさせていただく。
障害福祉課長挨拶	会長	年に2回しかやらないということで、すぐ終わってしまう感じがする。元々年3回だったが、半年に1回お会いするような感じで進み、何か物足りない感じもするが、また新しい委員の方々に11月からスタートとなるため、その際は意見交換会や条例制定10年の話も含めて進んでいければ良い。 本日の会議の議事録確認はG委員にお願いする。
		(旭川市を代表して、水上障害福祉課長から挨拶) (閉会)